

内部評価指摘事項への対応方針(天王寺区)

【様式5】

番号	自己評価 様式5（24年度）	運営方針(25年度)	指 摘 事 項		対 応 方 針 (26年度運営方針に反映されている場合は、その 反映状況についても記載してください。)	対応方針 の分類 (※参照)
	課題―戦略 ―取組	課題―戦略 ―取組	主旨	内 容		
1	1－2	4－1	戦略のめざす 成果に対する 有効性につい て	めざす成果の設定で、区民モニターアンケートの測定値の活用を前提に、設定した目標を既に達成していますが、25年度運営方針においては目標年度を1年前倒しすることにとどまっていることから、26年度運営方針の策定にあたっては、目標の引き上げ等、減災のための取組の強化として、どのような状態をめざすのか検討してください。	区民モニターアンケートの結果を踏まえ、目標の変更を行いました。	②
				【1－2－2 家具固定ワークショップの開催】では、設定した4つの業績目標のうち、2つが未達成ですが、「②目標を概ね達成」との評価になっています。②と評価した根拠を示す必要があります。	参加者数は目標を下回っているものの、ワークショップ開催回数(地域防災リーダーによるWSと区役所によるWS、あわせて8回)は目標を達成しており、総合的に判断し、「②目標を概ね達成」との評価」としています。	⑤
				「災害対策リテラシー」の向上で求めている「災害への対策を理解し、対応できるようにする能力」の状態が不明確です。ここで求める状態を「自助」「共助」ごとに整理して、その状態と現状とのギャップを課題として設定し、その課題解決に向けた戦略を構築する必要があります。	「災害への対策を理解し、対応できるようにする能力」の状態とは、災害に対する事前の備えとしてすべきことを理解し、かつ、実行し、災害が起こった際には、それらを活用し、適切な行動をとれる状態を示しています。 「自助」として、災害時の持出品等の用意率、家具の固定率を、「共助」として収容避難所の場所を知っている区民の割合を指標として整理しています。これらの割合の増加をめざし、各取組みを進めることとしています。	⑤
2	3－1	5－1	戦略のめざす 成果に対する 有効性につい て	めざす成果の達成状況欄で、区民モニター調査結果が記載されていますが、目標年度及び増加の目標数値が設定されていないので、この数値が、なぜ「B概ね順調に進捗している」との評価になるのかが不明確です。	現状把握できていなかったため、数値を把握のうえ、その割合の増加を図る、こととしたため、目標年度及び増加の目標数値が設定できなかったものです。 H24 区民モニターアンケート結果 「区内の歴史的・文化的な資産の認知度 83.9%」 「区役所が行う歴史的・文化的資産の情報発信や集客イベントが十分だと感じる区民の割合 71.6%」となっており、区将来ビジョンにおける、平成27年度末の成果目標として、「歴史的・文化的資産の情報発信が十分にできていると感じる区民の割合 70%」と比較しても「B概ね順調に進捗している」と自己評価したものです。 目標数値の設定については、25年度の運営方針において、めざす成果として「歴史的・文化的資産の情報発信が十分にできていると感じる区民の割合 70% 平成27年度」を設定しました。	①

※ 対応方針の分類 ①：当年度において対応 ②：26年度運営方針に反映または26年度に対応予定 ③：26年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④：対応困難または対応不可 ⑤：その他

内部評価指摘事項への対応方針(天王寺区)

【様式5】

番号	自己評価 様式5（24年度）	運営方針(25年度)	指 摘 事 項		対 応 方 針 (26年度運営方針に反映されている場合は、その 反映状況についても記載してください。)	対応方針 の分類 (※参照)
	課題—戦略 —取組	課題—戦略 —取組	主旨	内 容		
2	3－1	5－1	戦略のめざす 成果に対する 有効性について	戦略欄に「資産を活かしたイベントを戦略的・継続的に実施」と記載されていますが、25年度運営方針においても「斬新かつ魅力的なイベントの実施と戦略的魅力発信事業の展開」との表現にとどまっており、にぎわいと活力のあるまちづくりに向けて、どのように取り組むのかが不明確です。26年度運営方針の策定にあたっては、イベントの展開に向けどのように取り組むのか、また魅力発信としてどのようにターゲットを設定し、それぞれにアプローチしていくのかといった点について記載してください。	ターゲット設定やアプローチ手法については、25年度に具体的に設定していくことから、記載できなかったものです。 26年度運営方針において、具体的な表現に努めました。	②
				戦略の有効性評価について、戦略は有効で、成果の達成状況も順調であるにもかかわらず、「十分に情報発信ができていとは言えない」となる根拠が不明確です。また、十分な情報発信ができていないとして、どのような課題があるのか抽出し、対応方向で、その課題に対する具体的な方向性を示す必要があります。	戦略は有効で、成果の達成状況も順調であるが、自己評価として「十分に情報発信ができてい」とまでは言えないと判断したものです。	⑤
				【3－1－1 天王寺動物園開園 100 年、大坂の陣 400 年に向けた魅力・アイデア募集と情報発信】では、魅力発信やアイデアを募集した結果、なぜ魅力的なイベントの実施が課題となったのか、また、【3－1－2 天王寺区の魅力発信】では、複数の魅力発信を行った結果、なぜブランド力の強化が課題となったのか、当該課題を抽出した根拠を示す必要があります。	【3-1-1】アイデア募集結果を受けた課題、【3-1-2】複数の魅力発信を行った結果を受けての課題、と言うよりは、取組内容の目的に照らした課題として記載しました。	⑤
				25年度運営方針の経営課題欄において、「様々な伝統行事等が開催されているが、これらの情報を区内外へ効果的に発信できていない」という現状が記載されていますが、なぜ発信ができていないのかといった現状分析ができていません。26年度運営方針の策定にあたっては、どのような課題があるのかを抽出し、抽出した課題を解決するためにどのように取り組むのかといった戦略を構築する必要があります。	効果的な情報発信に満点というのは無いと考えます。より効果的に、効率的に情報発信を行うことができるよう、常に向上に努めていくべきであるとして、自己評価しています。	⑤

※ 対応方針の分類 ①：当年度において対応 ②：26年度運営方針に反映または26年度に対応予定 ③：26年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④：対応困難または対応不可 ⑤：その他